

## 第7回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時 2015年7月15日(水) 15:30~17:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

### 1. PCV・RPV 内部調査関連の検討状況について

IRID、東京電力、NDF より、PCV・RPV 内部調査関連の検討状況について以下の通り説明があった。

- IRID より、内部調査計画の全体概要及びいくつか想定した内部状況毎の装置、調査ステップ、目標、調査のイメージ等について説明があった。
- 東京電力より、2号機の調査用の貫通部前の遮へいの撤去について、想定よりも線量が高いこと、遮へいブロックが固着しており撤去作業に苦慮していること、この状況を踏まえた今後の進め方について説明があった。
- IRID より、1号機について、ペDESTAL底部の調査をするに当たりこれまで考えていたいくつかのケースのうち、デブリの拡散状況や線量分布を検討し、前回調査の結果から絞り込んだ実現の可能性のあるケースについて、要素試験等を通じて懸念事項に関する情報を蓄積しながら試作、実機へつなげていく予定等の説明があった。
- NDF より、燃料デブリに関する実機調査項目、調査方法について各号機毎に整理し、シミュレーションによる炉内の推定状況とも突き合せた状況をまとめ、今後2年程度かけて燃料デブリ取り出し方針を決定し、2018年度に燃料デブリ取り出し方法を決定していくプロセスと照らし合わせ、検討根拠としての過不足や、検討加速の必要性について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- しかるべく検討の上進めていることを理解したが、線量が想定より高い等の状況は今後もあり得るので、それらの対応はしっかりと検討しておいていただきたい。また、ロボットによる調査においては、手戻りが発生しないよう慎重に行ってもらえるよう望む。
- ペDESTAL内部の調査の事前確認や実際の調査でも、しっかりと線量分布を測ってほしい。寸法や重量等の制約はあるかと思うが、簡易なものでも良いので測定を検討していただきたい。
- 貫通部の溶融物について、周辺に使用されている材質がある程度分かるのであれば、それらを高温にする実験等でどのような性状になるか確かめておいたほうが良いと考える。それにより準備できる対策も検討できると思われる。
- 水中へのアクセスにおいて、放射線だけでなく、微生物や藻、泥等濁りの原因になるもの等のテストをしているようだが、カメラ・線量計ともうまく機能するように検討をしていただきたい。
- スケジュール通りに進め、対策等検討の時間を適切に使えるようにすることをお願いする。
- 3号機の内部の調査については、水中 ROV による調査は必ずしも容易ではないと思われるため、水位を低下させて気中環境で調査するといったチャレンジングな計画についても検討が必要と考える。
- 現状の解析結果では、いくつかの結果が推定のレベルであるので、中を見てデブリが落ちていることを

確認するのか、他に確認する手段はないか等の検討が必要と考える。中を見てしっかりと確認する方針とするならば、そのための検討も、前倒し、加速が望ましい。

## 2. その他

○次回の日程について

以 上